

何故ユダヤ人は差別された(る)のか？

AYSA西部部会

ASD

2023. 11. 23

イスラエルの歴史のまとめ(イスラエル大使館資料より)

紀元前
17～6世紀

★17th-6th C BCE 聖書時代

アブラハム、イサク、ヤコブ(ユダヤ民族の族長)がイスラエルの地に定住。飢饉により、イスラエルの民はエジプトへの移住を余儀なくされる。

13世紀頃

出エジプト:イスラエルの民はモーセに率いられてエジプトを脱出、シナイ砂漠を40年間流浪し、その間にシナイ山で十戒などのトーラー(モーセ五書)を授かる。

13 ~ 12世紀

イスラエル民族がカナン¹の地に定住

1020BC

ユダヤの王政が始まる(初代王:サウル)

1000BC

エルサレムがダビデ王国の首都となる

960BC

ユダヤの民族的精神的中心をなす第一神殿をソロモン王が建設

930BC

王国がユダとイスラエルに分裂

722～720BE

イスラエル王国がアッシリアに敗北し、10部族が追放される

586～538BC

ユダ王国がバビロニアに征服される。エルサレムと第一神殿が破壊され、大半のユダヤ人が捕囚される(バビロニア捕囚)。

★第二神殿時代

538-515BC

多数のユダヤ人がバビロンから帰還、神殿を再建

332 BC

アレクサンダー大王がイスラエルの地を征服、ギリシアによる支配が始まる

166-160 BC

ユダヤ教の制圧と神殿の冒瀆に対してマカビ(ハスモン)の反乱

142-63 BC

ハスモン朝下でのユダヤ人による自治、独立

63 BC

ローマ軍司令官ポンペイがエルサレムを占領

★ローマ支配

63-64 BC

ローマのヘロデ王がイスラエルの地を支配

エルサレムの神殿を改築

20-33

ナザレのイエスが伝道活動

66

ユダヤによる反ローマ蜂起

70

エルサレムと第二神殿の崩壊

73

マサダのユダヤ人玉砕

132-135

バル・コフバによる反ローマ蜂起

210

口伝律法(ミシュナー)が成立

★ビザンチン時代(313-636)

390 ミシュナー解釈書(エルサレム・タルムード)の完成
614 ペルシャ侵攻

★アラブ征服時代(636-1099)

691 エルサレムの第一神殿及び第二神殿の敷地に、カリフのアブドゥルマリクが「岩のドーム」を建造

★十字軍時代(1099-1291)

★マルムーク朝時代(1291-1516)

★オスマン帝国時代(1517-1917)

1860 エルサレム旧市街の城壁外に初の居住区が建設される。エルサレムの神殿を改築

1882-1914 第1次, 2次アリヤー(大規模移民、主にロシア、ポーランドから)(6万人)

1897 スイスのバーゼルでテオドール・ヘルツェルが第1回シオニスト会議を召集、世界シオニスト機構が創設される

1917 英国の征服により、400年の及ぶオスマン帝国支配が終焉
英国のバルフォア外相が、パレスチナにおけるユダヤの祖国建設支持(バルフォア宣言)

当時の人口イス:6万人、アラブ:70万人

★英国統治領時代(1918-1948)

- 1919-39 第3次(ロシア)、4次(ポーランド)、第5次(ドイツ)アリヤー(~30万人)
- 1915* 英国はオスマン帝国を倒すために、アラブ人の独立を約束(フサイン・マクマホン書簡)
- 1916* 英・仏・露は、オスマン帝国終結後の分割統治を合意(サンクス・ピコ協定)
- 1917* 英国はバルフォア宣言でパレスチナにユダヤ人国家を支持
- 1922 英国が国際連盟からパレスチナ(イスラエルの地)の委任統治権を承認される。トランスヨルダンがその4分の3の地域に設立され、残りの4分の1がユダヤの地となる。委任政府に対してユダヤ人コミュニティーを代表するユダヤ機関が設立される
- 1936-39 アラブのテロリストによる反ユダヤ暴動
- 1939 英国がユダヤ人の移民を厳しく制限
- 1939-45 第二次世界大戦。欧州でホロコースト発生
- 1941 地下活動組織レビ創設、ハガナーの突撃部隊バルマツハ創設
- 1947 国連がパレスチナの地にアラブ国家とユダヤ国家を創設することを提案
国連特別総会は、パレスチナをアラブ国家とユダヤ国家に分割決議案を採択(1947.11.29、賛成33、反対13、棄権10、欠席1)

旧約聖書について

- ☆ユダヤ人の始まりの歴史は、聖典「旧約聖書」に書かれている。
- ☆ただし、「旧約聖書」、「新約聖書」は、キリスト教会の用語。
- ☆ユダヤ教では、ヘブライ語で記された25巻の書を次の三部に分けている
 - 「律法(トーラー、Torah)」
 - 「預言者(ネビーイーム、Neviim)」
 - 「諸書(ケトウービーム、Ketubim)」
- それぞれの頭文字TNKをとって**タナフ**あるいは**タナハ**と呼ぶ
- ☆39の文書から成る。ユダヤ人の歴史が語れる中でユダヤ教の教えを説く
- ☆口述伝承されたものが、紀元前四世紀までに現在のようになり、90年頃ヤムニア会議において聖典となる(マソラ本)

旧約聖書(マソラ本文、39の文書)

<p>律法(モーゼ五書) Torah</p>		<p>創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記</p>
<p>預言者 (ネビーイーム) Neviim</p>	<p>前の預言者</p>	<p>ヨシュア記、士師記、サムエル記上 サムエル記下、列王記上、列王記下</p>
	<p>後の預言者 (三大預言者)</p>	<p>イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル記</p>
	<p>小預言者 (十二小預言者)</p>	<p>ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、 ヨナ書、ミカ書、ノホム書、ハバクク書、 ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書</p>
<p>諸書 (ケトウビーム) Ketubim</p>	<p>真理(エメス)</p>	<p>詩編、ヨブ記、箴言</p>
	<p>巻物 (メキロート)</p>	<p>雅歌、ルツ記、哀歌、コヘレトの言葉(伝道の書)、 エステル記、ダニエル書、エズラ記、ネヘミヤ記、 歴代誌上、歴代誌下</p>

☆ユダヤ人の起源(旧約聖書)

- ・ノアの箱舟から10代目のアブラハム(父祖)は、ウルから一族を伴ってバビロンを経て、「カナンの地」に移り住む(創世記12～25)
- ・その子イツハク(同25～26)が継ぎ、双子の孫エサウとヤコブ(同25～36)
- ・ヤコブはエサウから家督を奪うが、兄に憎まれ東方に逃れる。やがてカナンに帰るが、神と格闘して勝利を得たゆえに、「イスラエル」(神に挑むの意)という名を与えられる。
- ・やがて大飢饉が起こって、ヤコブとその子11人は、ヨセフを頼ってエジプトへ移住した。(イスラエルの12部族の先祖)
- ・ヨセフ(ヤコブの第11子)は、兄たちに憎まれエジプトに売られていたが、ファラオの宰相になっていた。
- ・ヤコブの子12人は、何世代かエジプトで生き延びるが、一方でファラオの圧政に苦しむ。ここで、登場したのがモーゼ。

「旧約聖書」の出エジプト記

- ・ファラオは、イスラエル人が増えるのを恐れ、男児は殺すと命ず
- ・レビ族が男児を産み、川に隠したがファラオの娘に助けられた(モーゼ)
- ・羊飼いとして成長したが、神から「私の民を豊かな地へ導け」と告げられる
- ・モーゼはカナンへの帰還を申し出るが、ファラオに拒否される
- ・怒った神ヤハウェは、エジプト人に疫病などの禍をもたらした。許可が出る
- ・紀元前13世紀、モーゼと兄アロンに率いられた65万人(20歳以上の男)の一隊がエジプトを脱出した(The Exodus)
- ・40日間シナイ砂漠をさすらい、「葦の海」を渡る際、背後にエジプト軍が迫るが、モーゼは杖をかざして海を割り、無事に海を渡る
- ・三ヶ月後、シナイ山に辿り着き、モーゼは神(ヤハウェ)から二枚の石板を授けられる。これが「モーゼの十戒」である
- ・その後、一行は40年間砂漠を彷徨い、死海は見下ろすネボ山に至り、モーゼは死ぬ。後を幕僚ヨシュアが引継ぎ、エリコ(カナンの地)に帰る

出エジプトのルート

(諸説あり)



モーゼの十戒(神との契約):キリスト教の宗派によって表現が違ふ

- 1.主が唯一の神であること
- 2.偶像を作ってはならないこと(偶像崇拝の禁止)
- 3.神の名をみだりに唱えてはならないこと
- 4.安息日を守ること
- 5.父母を敬うこと
- 6.殺人をしてはいけないこと(汝、殺す勿れ)
- 7.姦淫をしてはいけないこと
- 8.盗んではいけないこと(汝、盗む勿れ)
- 9.隣人について偽証してはいけないこと
- 10.隣人の家、妻、奴隷、牛とロバなど財産を欲してはいけないこと

十戒にある禁止事項の裏返しが当時公然と行なわれていた？

・以前からカナンに住んでいたユダヤ人は、土着の宗教（農耕神、バール神＝繁殖神）の影響を受けていた。

原始民族（農耕民族）は、豊饒＝生殖

⇒豊作を祈って、酒を飲み、踊り狂い、神の前で男女乱交（ギリシャにおけるオルギア）

・紀元前7～600年頃、アッシリア朝バビロンでは、バール神による性的素乱は激しかった。バビロンの捕囚で連れていかれたユダヤ人は、その光景を見た。

⇒商人や職人のユダヤ人は、繁殖神のオルギアと乱交は部族の倫理をかき乱すものとして排除

十戒の意味するところ：「バール宗教との闘い＝ユダヤ諸部族（12部族）が一丸となる証となった」

バビロニア捕囚時代(紀元前586～538年)

- ☆新バビロニアの王ネブカドネザルはユダ王国(南王国)の首都エルサレムを攻略した。生き残った人々の大半をバビロンに強制移住させ、人々は捕囚にされる。最初の捕囚は紀元前597年(数千人)に、その後、紀元前586年、582年または581年、最後の捕囚は紀元前578年に(数十万人?)、行われたとされる。
- ☆前538年新バビロニアはペルシャに滅ぼされ、キュロス王によってカナンへの帰還を許される。(20万人が帰還したとの記録あり)
- ☆破壊された神殿(を再建
- ☆古代オリエントでは、反乱防止や職人・一般労働者の確保として強制移住は頻繁に行なわれた。
- ★バビロニアに残った者＝**ディアスポラ**(ギリシャ語で「散らされた者」

キリスト教の成立と発展

★4年イエスがベツレヘムで誕生（新約聖書、生誕日、場所は諸説あり）

★30歳の頃から布教活動開始。（それまでのことはほとんど記録なし）

★ユダヤ教の律法主義に縛られず、隣人愛や普通の人への救いを説く

★ユダヤ教の祭司たちはイエスを逮捕してローマの総督に差し出す。

ユダヤ教の過越祭の恩赦で罪人1人を釈放するのが慣例。

総督は「イエスを釈放する？」と提案、ユダヤ人は別人（バラバ）を。

★32年イエスは、カルタゴの丘で十字架に架けられた。

☆イエスの死後、12使徒はじめ弟子が布教活動を始めた

☆最も活躍したのは、有名な「パウロ」、異民族に対する3回の伝道の旅

☆布教活動中、ローマへ移送される。12使徒の1人ペトロもローマへ。

二人は各地で布教活動を行うが弾圧で殉死したが、徐々に広まる。

☆313年コンスタティヌス帝は、キリスト教を公認。

☆コ帝の死後、政争が続き混乱。テオドシウス帝は国家統一のため、キリ

スト教を国教とする勅令を発する。

イスラム教の成立とセム的一神教の比較

- ・イスラム教：7世紀、預言者ムハンマド(570～632)が出現、40歳の頃、神アッラーの啓示を受け教団国家を建設。神は唯一にして絶対のアッラーであり、聖典「クルアーン」とムハンマドの言行録「ハディース」の教えに従う。
- ・ユダヤ教：紀元前6世紀、バビロニア捕囚時に成立
バビロニア以前は、ヤハウエ信仰を基本原理として民族共同体として発展した。自分たちのみがヤハウエ宗教の正統な相続者であると主張。
- ・キリスト教：1世紀、ユダヤ教を母体としてその律法主義・民族的独善主義を批判し、神の絶対愛による救済を説いたイエスを救世主とする原始キリスト教団が成立。

三宗教はなぜ一つになれないか？

	ユダヤ教	キリスト教	イスラム教
イスラエル 聖地	神より与えられた地 神殿の建設(破壊) 嘆きの壁	イエスが処刑された地 聖墳墓教会	ムハンマドが天馬で降臨 イスラム聖堂岩のドーム 638年以降の支配地
民族宗教 世界宗教	民族宗教 イエスを認めていない 選民思想	世界宗教 ユダヤ教はイエスを殺 した宗教	世界宗教 ユダヤ教の教義は否定
主義 聖典	律法主義 「タルムード」をラビより 授かる	人間の内面価値を重視 人間中心主義	「クルアーン」、「ハディース」が絶対 原理主義
聖職者	ラビ=法学者	神と信者の間に介在 「聖書」の解釈に違い	ウラマー=法学者
信仰社会	デアスポラで各地に 商業ネットワーク	農耕社会に浸透 定住	商業的性格 喜捨=ザカート

十字軍とは何か？

11世紀末から13世紀にかけて西ヨーロッパのキリスト教徒が起こした異教徒討伐の遠征。聖地エルサレムの回復を目的とした。

1096年教皇ウルバヌス二世の勧告で第1回十字軍を送って以来、第8回まで行なわれた。第1回るとき聖地を回復、エルサレム王国をたてたが、以後は失敗。

☆11世紀イスラム世界は、セルジューク朝が支配（中近東から中央アジア）ギリシャの地にはビザンツ帝国（東ローマ帝国、首都コンスタンティノープル）両国は領土争いを繰り返していた。皇帝が教皇に援軍を要請。

☆カトリック教会の力の低下していた中、「聖地を取り返せ」号令一下、失地回復を狙った運動との説もある。（後半では、聖地奪還の目標がズレてきた）

☆十字軍がもたらした影響：

- ①東方の文物がもたらされた。交易（貨幣）や建築物の移入
- ②「聖戦」を基に諸侯や教会の団結や根拠づけに活用
- ③インド発のペストの大流行（ネズミの移入）⇒ユダヤ人の迫害へ



何故ユダヤ人は差別されたのか？

1) キリスト教の差別迫害

- ・イエスがユダヤ人に殺された。
- ・イエスや弟子ペトロ、パウロはユダヤ人だが、同一民族だからこそ反感意識も増大したか？
- ・ユダヤ教がローマ帝国の国教になり、一層差別が強まった

2) 中世初期: ユダヤ人は身分的制約はあったが、差別は緩かった

3) 11世紀末: 十字軍により激変

- ・「聖地エルサレムを異教徒から奪還しよう」

4) 14世紀: 欧州でペスト(黒死病)の大流行(住民の1/3が死亡)

- ・デマ「ユダヤ人が井戸に毒を入れた」 ⇒ 集団虐殺の発生
- ・デマ「少年を誘拐し生血を祭壇に捧げている」
- ・デマ「パンに血を混ぜたり、カビを生やしたりする」

5) 高利貸しなど金融業などで裕福層が増える。妬み=差別

何故ユダヤ人は根絶されねばならなかったのか？

- 1) 中世末、スペインではレコンキスタ(国土回復運動)で追放される
⇒オランダに移住(スファラディ系ユダヤ人)
- 2) ライン地方に住んでいたユダヤ人は、ポーランド(1264年に「ユダヤ人自由憲章」を発布)へ移住(アシュケナジム系)。17世紀には50万人
- 3) 1789年フランス革命が勃発し、「人間は自由で平等である」との理念が打ち出され、ヨーロッパ全土に行き渡った。
⇒この思想の後押しで、ユダヤ人の活躍の場が広がった。
マルクス、フロイト、アインシュタインなど
⇒一方、ユダヤ差別は、なお一層過激になった。
- 4) ドイツでは第一次大戦後、反ユダヤ感情が醸成された。 ⇒**ホロコースト**
☆ドイツ人は苦しんでいるのに、ユダヤ人はそれを共有しない=**妬み**
☆加えて、ロシア革命で亡命貴族が大量に流入し、「アンチ・ユダヤ」キャンペーンを張った。
- 5) 「ドレフュス事件」について: 1894年ユダヤ系陸軍大尉がスパイ容疑で逮捕され、終身刑を宣告された。 = **国家を二分する冤罪事件**

何故ユダヤ人は根絶されねばならなかったのか？

6) ダーウィニズムの悪用:

進化論 ⇒ 適者生存、優勝劣敗 ⇒

「優れた種＝優等人種は残り、劣った種＝劣等人種は淘汰」

劣った種＝劣等人種がユダヤ人



ヒトラーの絶滅計画(ホロコースト) 死者数: 600万人

7) ロシアの「ポグロム」: 19世紀、ロシア、東欧での集団的ユダヤ人迫害

1881年アレキサンドル2世が暗殺されたが、ユダヤ人の犯行の噂

⇒各地でユダヤ人居住区が襲撃され大量殺害が発生(死者500万人)

8) ロシア革命とユダヤ人: 1917年ユダヤ人革命家が大きな役割を果たした

ボリシェヴィキ; トロツキー, スヴェルドロフ, ジノヴィエフ, カーメネフ等

スターリンの粛清で多数のユダヤ人幹部は殺害される



1896年 テオドール・ヘルツが「ユダヤ国家」を出版

⇒「シオニズム運動」ユダヤ人のエルサレム帰還が始まる

何故ユダヤ人は金持ちか？

- 1) キリスト教の教義では、神の所有物である時間を奪うことは禁止
 - ・ 利子＝時間の経過で生み出される価値
 - ・ 旧約聖書(22-24)：高利貸、利子の禁止
 - ⇒ 1179年第3ラテラン会議で禁止「利子を取るものは破門」(~16世紀)
 - ⇒ キリスト教徒は、金融業に携わることへの忌避感がある
- 2) ローマ帝国および中世での欧州ではユダヤ人の土地所有など各種の制限を課す
 - ⇒ 農地が所有できない＝都市に住む
 - ⇒ 商人、職人、金融業、医者、芸術家、教育者など
 - ⇒ 高学歴化
- 3) その他：ネットワーク、教育熱心、帰属意識などで

イスラエル建国

1917年バルフォア宣言(英国外相バルフォアがロスチャイルドに送った書簡で「シオニズム」を支持)を受けてパレスチナへ調査団を派遣

- 1) 1919年: アメリカ調査団: 「ユダヤ国家建設を放棄すべき」
- 2) 1921年: 英国はパレスチナでの騒乱の調査団派遣
- 3) 1929年: エルサレムの西壁で起きた騒乱の調査
- 4) 1936年: ピール調査団は、小手先では解決困難⇒ユダヤ、アラブそれぞれの独立国家をつくり、エルサレム、ナザレはイギリスの信託統治で残す。
- 5) 1938年: ピール調査団の分割案に関し、線引きを勧告するm区的であったが、両者の反対により分割は不可能との報告書を提出。
- 6) 1946年4月: 米英調査団報告書提出。ユダヤ人とアラブ人が敵意が消滅するまで、パレスチナは委託統治下に置くとした。英国は国連に一任した。
- 7) 1947年4月: 英国の要請で国連総会でパレスチナ特別委員会が設置される
- 8) 1947年11月29日: 国連特別総会で、「パレスチナをユダヤ国家とアラブ国家に分割。エルサレム周辺は国連の信託統治」を議決。
(ユダヤ国家: 56.5%、アラブ国家43.5%、エルサレムを国連の永久信託統治)

パレスチナのアラブ側領土比較



イスラエル独立と中東戦争

☆1948年8月14日 イスラエル独立宣言(人口65万人、面積:56%)

☆第1次中東戦争(48.8.14~49.7.20):8月15日未明アラブ5か国(レバノン、シリア、イラク、エジプト、サウジアラビア(エジプトの指揮下で一隊を送ったと主張)正規軍が攻撃開始

⇒イスラエルは、当初劣勢であったが、国連の呼びかけで6月11日から4週間停戦。その間、国防軍を創設、(3万人から市民を含む11万人を動員)。奇跡の勝利と言われている。

(イスラエルは77%獲得、ヨルダン川西岸:ヨルダン、ガザ:エジプトが支配)

☆第2次(56.10.29~11.6):スエズ戦争(動乱):英仏のスエズ運河利権に絡んだ争いにイスラエルがシナイ半島を占領、(4次後に撤退合意)

イスラエルは、アカバ湾の航行の自由を獲得。

エジプトは、スエズ運河を国有化(ナセル大統領)

1947年の国連分割案に基づく国境線



ユダヤ人国家

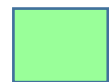


アラブ人国家



エルサレム:周辺特別地区

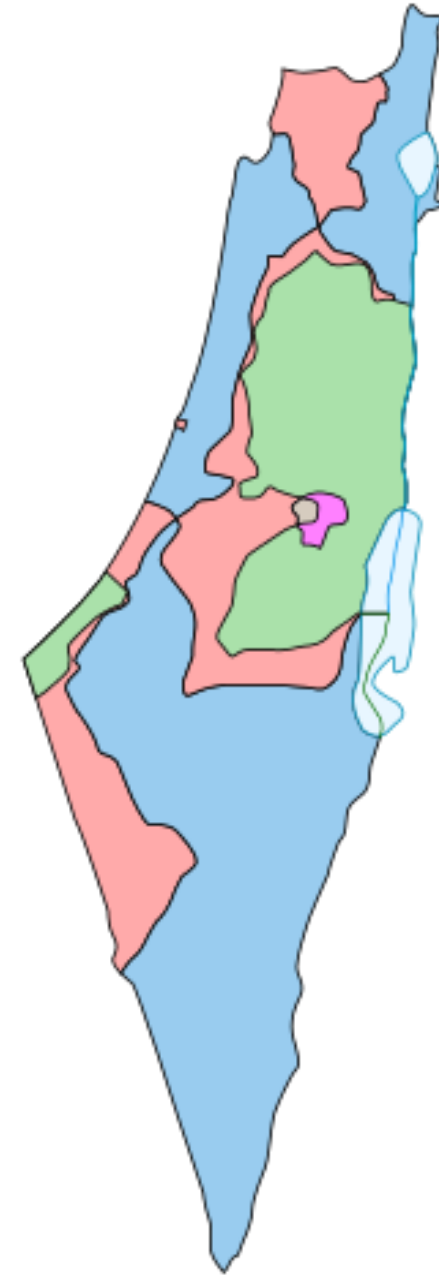
1949年の休戦ライン(1次中東戦争後)



1967年までエジプト・ヨルダン
が支配した地域



イスラエル



☆第3次(67.6. 5~10):6日戦争:

1956年の第二次中東戦争以降対イスラエル・アラブ情勢は比較的安定していたが、1966年にアラファトがヨルダンでPLOを結成、抵抗運動を開始。1967年5月にはエジプトがシナイ半島に地上部隊を進出させ、さらにエジプトの要求により第一次国際連合緊急軍が撤退、チラン海峡も閉鎖するなど「イスラエルの抹殺」、すなわち戦争の動きを見せるようになった。

6月5日、突如イスラエル空軍が、アラブ各国の空軍基地を爆撃、大打撃を与え6日で終結。

イスラエルはエジプトからシナイ半島(その後返還)、ガザ地区を、ヨルダンから東エルサレムを含むヨルダン川西岸を、シリアからゴラン高原を占領し、自国領であると主張し、現在も実効支配を続けている。(国際的には受け入れられていない。)

☆第4次(73.10, 6~11.11): ラマダン戦争

- ・エジプトがシリアと共に失地回復のために贖罪日に攻撃開始。初期はエジプトが優勢であったが、イスラエルはスエズ運河を逆渡河し、西岸の一部を確保。また、ゴラン高原ではモロッコ・イラク・サウジの援軍を破り、停戦合意。双方痛み分け。
- ・エジプトのサダト大統領は、1978年にキャンプ・デービッド合意に調印。シナイ半島の変換を獲得。**イスラエルを承認(アラブで初)**。(サダトはベギン首相と共にノーベル平和賞を受賞。1981年10月6日(開戦記念日)にイスラム原理集団に暗殺)
- ・次いでヨルダンのフセイン国王は、和平に合意。1994年クリントンの仲介で和平条約に調印。
- ・**オイル危機: アラブ産油国がイスラエル支持国に対し石油供給削減を武器に使った最初の戦争。 ⇒ オイルショック**

ヨルダン川西岸地区



2010年現在、ヨルダン川西岸地区は統治者によって、3分されている。

1.A地区...パレスチナ政府が行政権、警察権共に実権を握る地区。2000年時点で面積の17.2%^{[3][4]}

2.B地区...パレスチナ政府が行政権、イスラエル軍が警察権の実権を握る地区(警察権は、パレスチナ政府と共同の地区も含む)。2000年時点で面積の23.8%

3.C地区...イスラエル軍が行政権、軍事権共に実権を握る地区。2000年時点で面積の59%。2018年現在で面積の「60%以上」^[5]

ガザ地区

ガザ地区：（南北：50km、東西：5～8km）

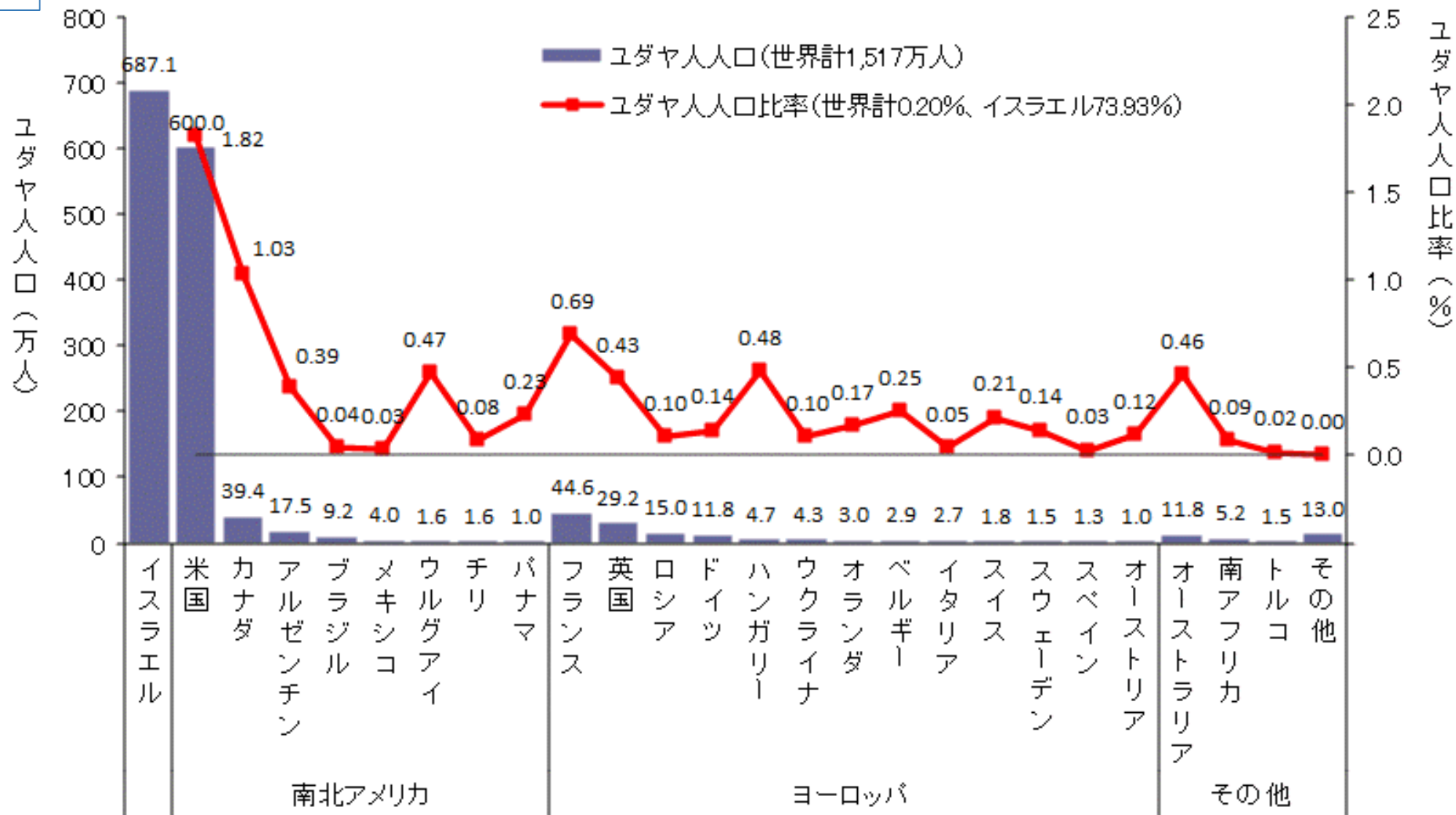
- 1) 1517年オスマン帝国が占領、エジプトから逃れてきた住民が多数。第1次大戦まで400年間統治。
- 2) 1929年パレスチナ人の暴動でイスラエル人の居住は禁止された。
- 3) 第一次中東戦争後エジプトが支配。
- 4) 第三次中東戦争ではイスラエルの占領下に置かれ、ガザ地区にユダヤ人入植地が設けられた。
- 5) オスロ合意後、パレスチン自治政府の統治下)
- 7) 2006年ハマスによるイスラエル兵士が拉致されたのをきっかけに戦車隊を派遣(ガザ侵攻)。その後、ハマスとの度々の衝突は続いている。



イスラエルについて

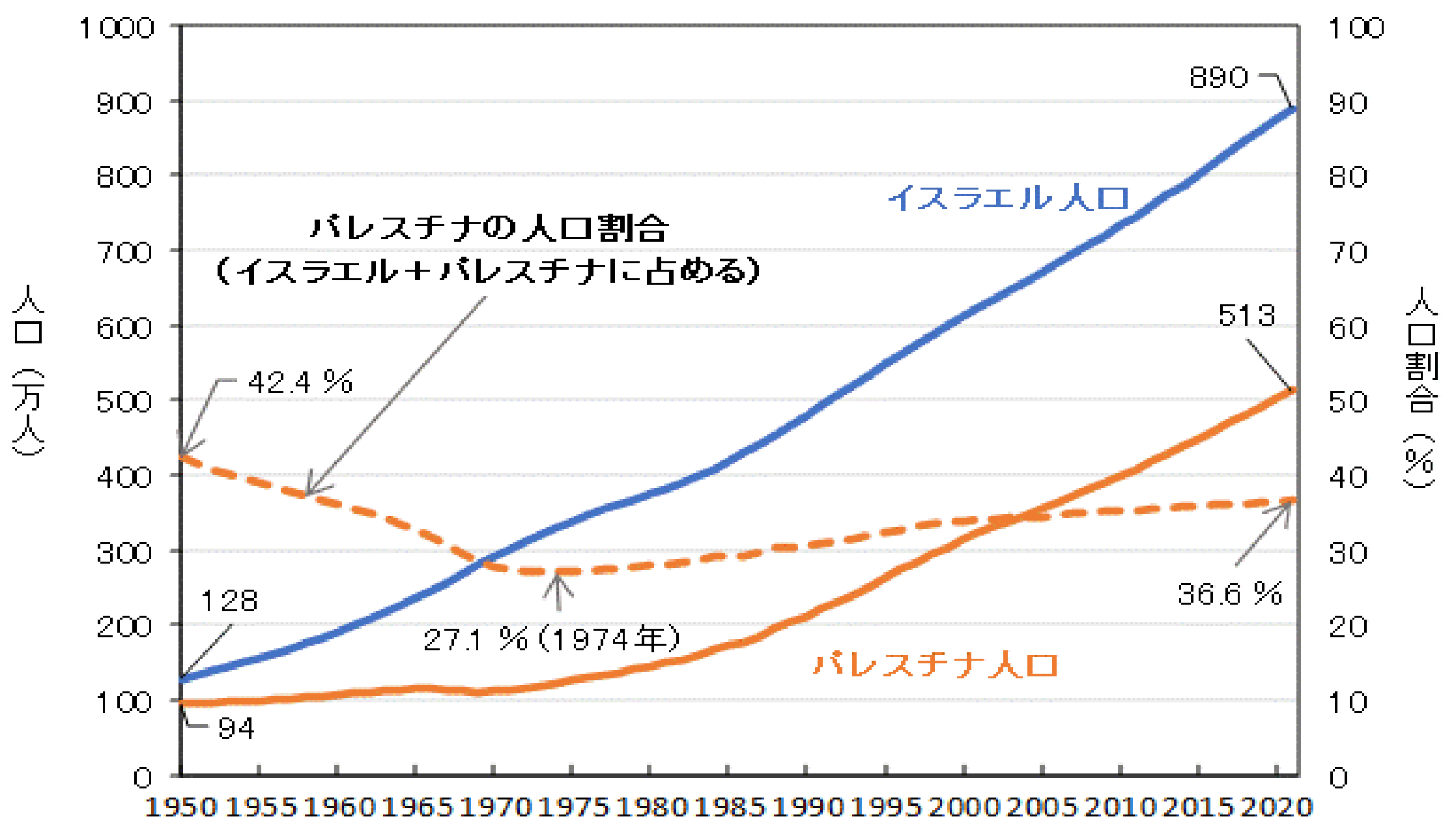
- 面積: 2. 2万平方キロメートル(日本の四国程度)
- 人口: 934万人(2021年、イスラエル中央統計局)
- 民族: ユダヤ人(約 74%) アラブ人(約 21%) その他(約 5%)
(2020年4月イスラエル中央統計局)

世界のユダヤ人人口 1,517万人 (2021年)



(注) イスラエルには東エルサレム、西岸、ゴラン高原を含む(ただし西岸の総人口はユダヤ人世帯の人口のみ)。

(資料) Sergio DellaPergola. "World Jewish Population, 2021," in Arnold Dashefsky and Ira M. Sheskin. (Editors) The American Jewish Year Book, 2021



(注) イスラエル人口の民族構成はユダヤ人74%、アラブ人(イスラエル国籍パレスチナ人)21%、その他1%である(米CIAの2020年推計)。パレスチナ人口はゴザ地区と西岸の人口。

イスラエル支配地全域でのユダヤ人とパレスチナ人の推定人口の推移

(単位:100万人 2016年以降は予測)

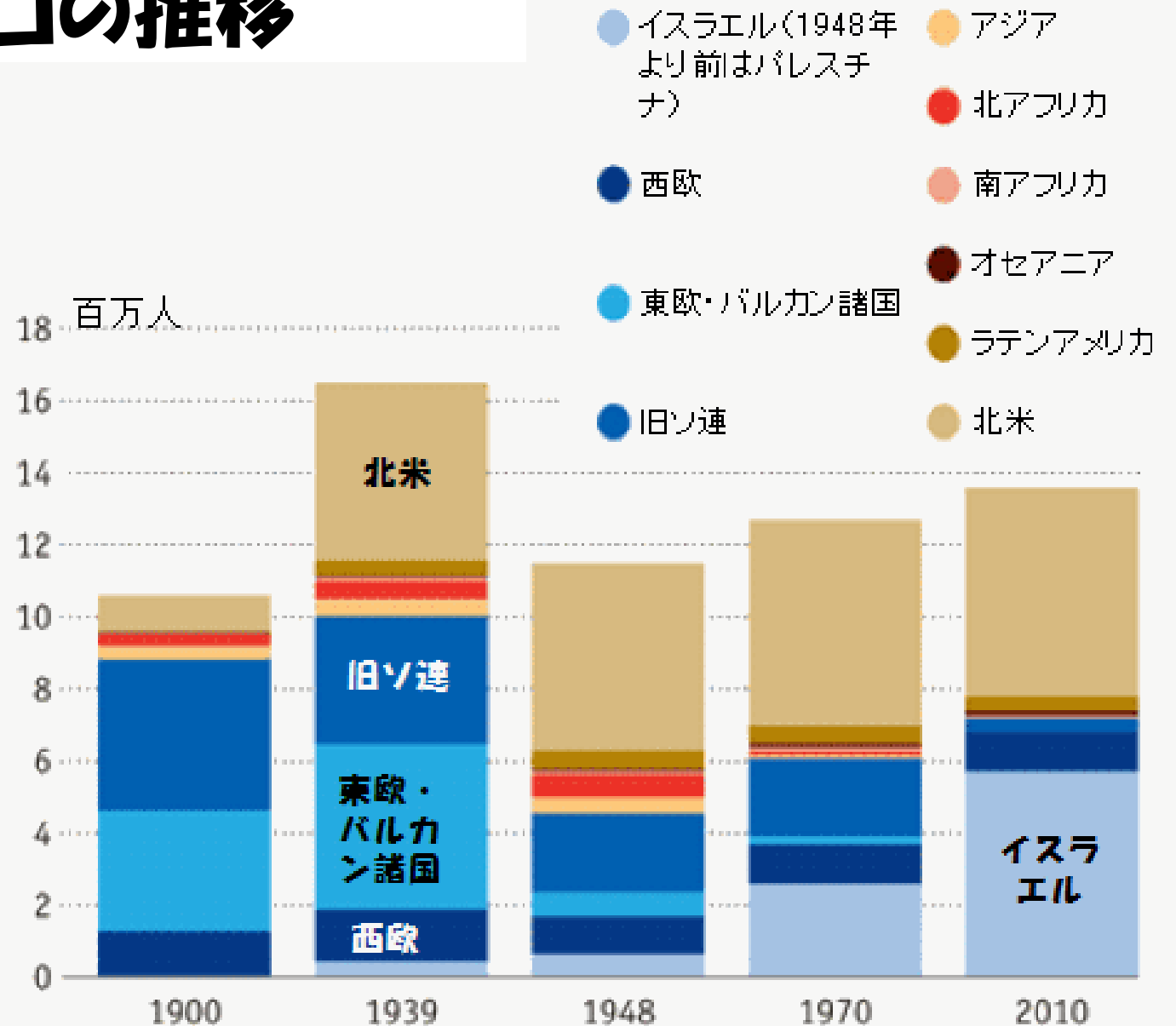


地域別ユダヤ人人口の推移

主なユダヤ人迫害の歴史

1) ロシアにおけるポグロム（ユダヤ人に対する集団暴力行為）が1881-84年、1903-06年、1917-21年と3波にわたって多発した。

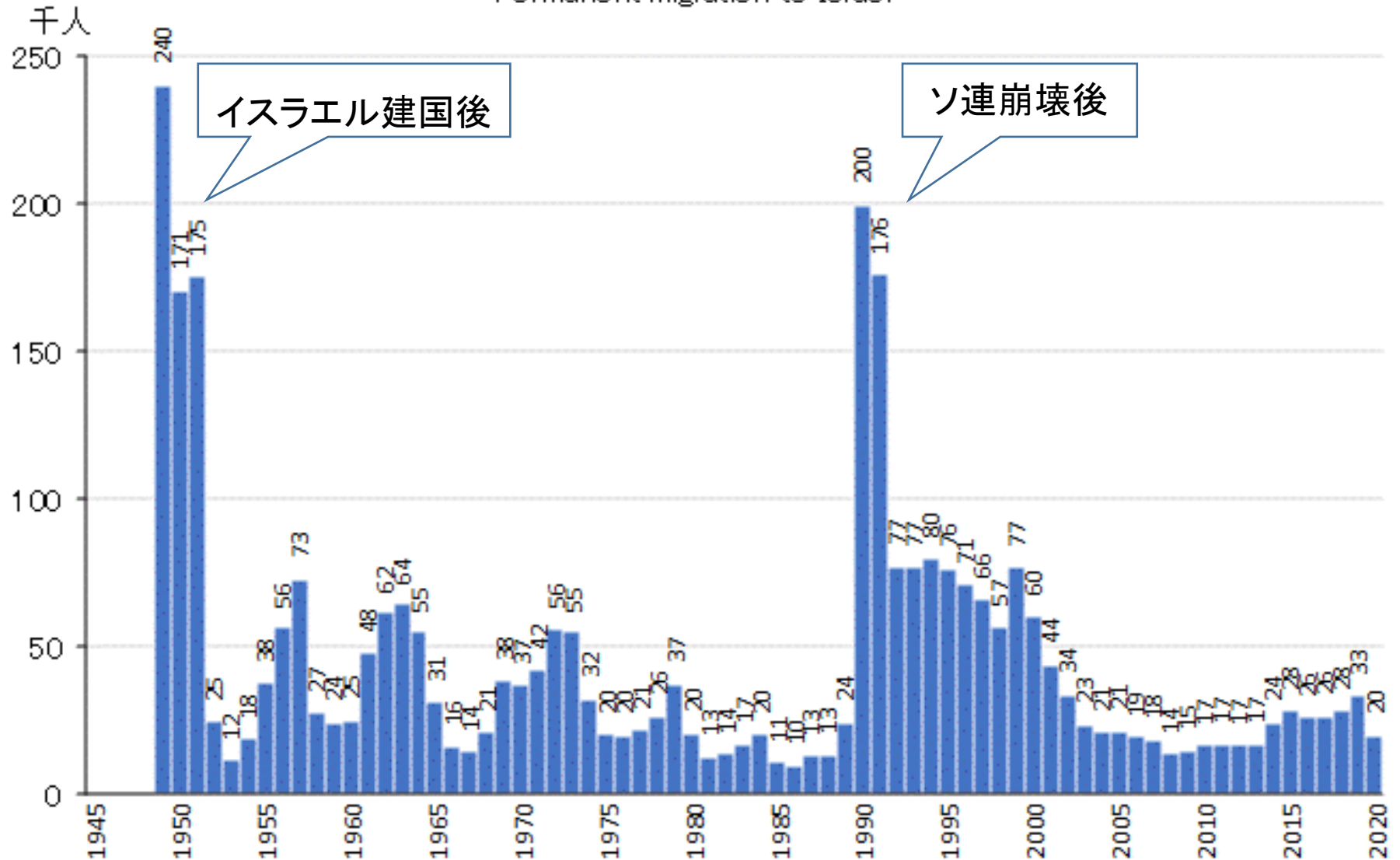
2) ナチスがドイツの政権を握り、侵攻先の東欧地域でユダヤ人の大量虐殺（ホロコースト）を行ったため、ユダヤ人全体の人口は500万人以上の減少を見ている



(資料) The Economist July 28th 2012

イスラエルへの移民数の推移

Permanent migration to Israel



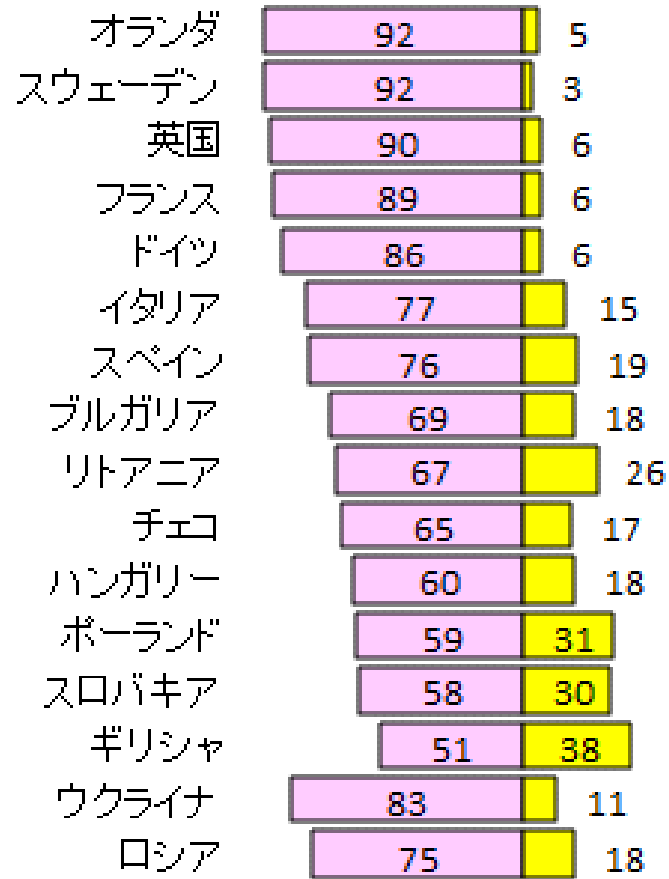
イスラエル建国以前
欧州から帰還(アリヤー)

- 第1次(1882~1903)
ロシア、 2~3万人
- 第2次(1904~1918)
ロシアなど 3~4万人
- 第3次(1919~1923)
ロシア、東欧 3.5万人
- 第4次(1924~1931)
ポーランド 8万人
- 第5次(1932~1938)
ドイツ 19.7万人
- 第6次(1939~1945)
欧州 8万人
- 英統治末期(1946~1948)
欧州 5.6万人

(資料) OECD International Migration Outlook 2011,2022

ヨーロッパにおけるユダヤとイスラム観

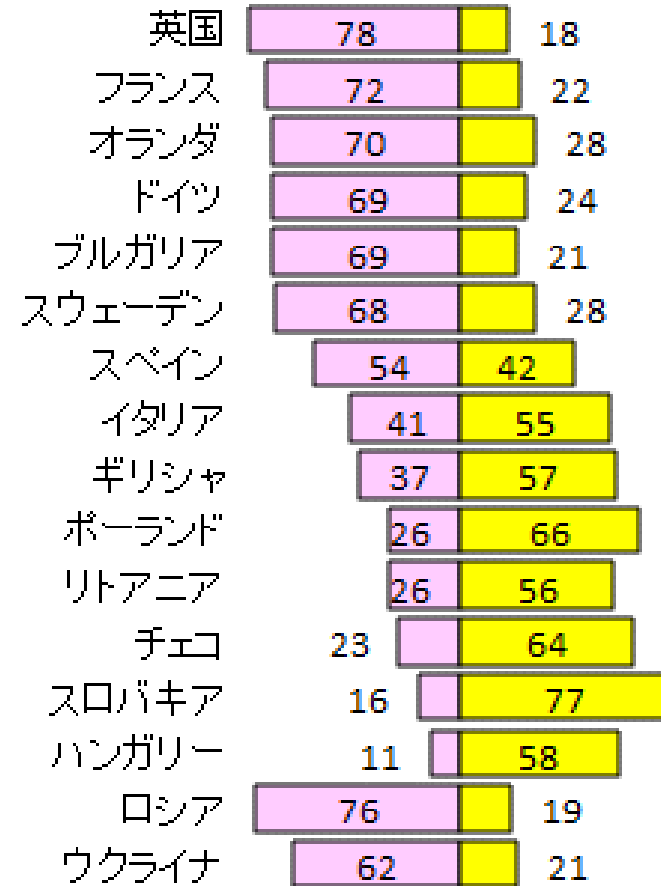
ヨーロッパのユダヤ人観 単位:%



■ 親ユダヤ人 (Favorable)
 ■ 反ユダヤ人 (Unfavorable)

(注) 2019年春の調査による
 (資料) Pew Reserch Center(2019.10.15)

ヨーロッパのイスラム観 単位:%



■ 親イスラム (Favorable)
 ■ 反イスラム (Unfavorable)

(注) 2019年春の調査による
 (資料) Pew Reserch Center(2019.10.15)

参考文献

- ・松村 剛「ユダヤ人」 中公新書 1991 64版
- ・高橋正男「物語 イスラエルの歴史」 中公新書 2008
- ・佐藤 賢一「よくわかる一神教」 集英社 2021
- ・その他 : Wikipedia